

授業概要

環境心理学は、環境と人間の相互作用を研究する心理学である。人間の心の状態や行動は環境から多大な影響を受けると同時に、環境に働きかけ、環境を変えていく。環境は人間の作った物理的環境や自然環境のみならず、個人もまた他者における環境の一つである。本講義では、環境心理学の考え方、研究方法、研究分野、現在得られている知見などを講義して、環境の観点から人間の理解を深める。

授業計画

第 1 回	環境心理学とは何か
第 2 回	環境の知覚と認知(1)：認知距離
第 3 回	環境の知覚と認知(2)：認知地図
第 4 回	環境の知覚と認知(3)：認知地図の発達、獲得
第 5 回	対人・社会環境(1)：プロクセミクス
第 6 回	対人・社会環境(2)：パーソナルスペース
第 7 回	対人・社会環境(3)：クラウディング
第 8 回	環境と空間行動(1)：アフォーダンス、シグニファイア
第 9 回	環境と空間行動(2)：ピクトグラム、標識、地図などの住環境
第 10 回	環境と空間行動(3)：住居空間、職場環境などの心理
第 11 回	自然環境の心理と観光
第 12 回	照明環境の心理(1)：住居環境における照明
第 13 回	照明環境の心理(2)：店舗、イベント会場などにおける照明
第 14 回	音楽環境の心理(1)：環境音楽 (BGM など) の心理的効果
第 15 回	音楽環境の心理(2)：Mozart 効果などに見られる音楽の心理的効果
第 16 回	筆記試験

到達目標

1. 環境心理学の考え方や研究方法、得られた知見を通じて、人間にとっての環境の意義を考える。
2. 物理的環境や人的環境の理解を通じて人間を理解する。
3. 環境心理学は周辺領域にまたがる学際的な研究領域であることの理解を深める。

履修上の注意

具体的な研究方法（質問紙など）はなるべく授業で課題として体験してもらいたい。また、授業の講義から興味を持ったテーマや研究は自ら積極的に調べたりして知識や理解を深めてほしい。そのための質問や意見はいつでも歓迎する。

予習・復習

参考書として挙げた書籍を読んで、授業と合わせて予習、復習を進めてもらいたい。

評価方法

授業における課題提出（40%）と学期末試験（60%）により総合的に評価する。

テキスト

毎回、配布資料と PowerPoint で講義を進める。参考書としては、以下。

- ・参考書名：環境心理学
- ・著者名：羽生和紀
- ・出版社名：サイエンス社
- ・出版年 (ISBN)：2012 (978-4-7819-1194-6)